報徳@なう
発行人：本岡俊郎

民間団体としての強み

日本の福祉の世界は、圧倒的に行政の力が強く、欧米のようにキリスト教会や民間の大きな財団が影響力を持っている国とは違います。戦後の経済成長期に、今の福祉制度が出来上がりました。また戦後永らくは、共産主義国家との対立が続き、１９８９年ベルリンの壁が崩壊するまで、所得政策や福祉政策で労働者への分配を重視し共産主義の浸透を防がなければいけないという国是もありました。

例えばフードバンク活動で、かかわりがある生活保護制度では受給者は二百万人、細部で問題はあるものの、ほぼ完ぺきに運営されているようにみえます。日本のフードバンク活動がいまひとつ伸びない原因の一つに、生活保護制度が機能しているからではないかと思う程です。

でも行政による福祉政策の運用には、大きな制限があります。その制度の対象となる人達すべてに平等に適用されなければなりません。また、条文で決められている事以外の事はしてはいけません。時代は変化して、その制度が機能しなくなっても、改革されるまではすごく時間がかかります。

急速な高齢化、伝統的な家族制度の崩壊、男女間格差の解消などの変化は、様々な現行の福祉制度改革を必要としています。その矛盾の隙間を補う活動をするのが民間の福祉団体の大きな役割だと実感しています。

民間団体の強みは、①すぐに対応できる。②その団体の責任で、特定の人だけを助けられる。③規模が小さいゆえに特定の地域だけで活動ができます。現実にいま、急激な物価上昇で、これまでの生活費では暮らしていけない、低所得者層の方が急速に増えています。その方が役所に駆け込んでも窓口の担当者は、決められた事以外ほとんど何もできないのです。報徳食品支援センターの活動を知っている担当者は、我々に連絡してきます。その知らせを受けて、食品を提供しています。希望者の家族構成などを詳細に伺って、相応な食品を準備します。自分達家族の事を思って揃えられた食品を見てホッとされる方は何人もおられます。一律の対応しかできない行政に対して臨機応変に隙間を埋めているのです。これからも、ますます行政サイドとこのような連携が強まっていくでしょう。



ほっと安心♡

無償配布の問題

フードバンクは、無償で食品をお渡ししています。食品は、人が直接口にするものであり、その安全性には細心の注意を払わねばなりません。それは、有償で販売するときは勿論、無償でお渡しする時も同じです。

私は40年間食品業界、その後はフードバンクで14年間働いて来ました。最近改めて無償で渡す難しさを痛感しています。

有償、例えばスーパーで食品を買う時は、必ずレシートをもらいます。実はこのレシートは重要な役割を担っています。『取引の証明書』なのです。仮に買ったメロンが一部痛んでいれば、それをレシートと一緒にお店に持って行けば、すぐに交換してくれます。売る側にすれば、このレシートは、品質保証書なのです。



それに対して、無償で配った食品に問題があったとします。その場合もらった人がレシートに代わるものを持っていなければ、クレームを申したてるのが難しいです。客観的な証拠がないのです。お渡ししたフードバンクには連絡もせずに、いきなりメーカーや保健所に通報することになるケースがあります。私たちは、その問題を回避するために誰に何をお渡したのか、はっきりわかるようにして

います。個人に渡す時は勿論ですが、団体に渡す時も同じです。

団体に渡した食品が、その団体内部で消費される場合は心配がないのですが、お渡しした団体が、さらに不特定の方達に渡す場合があります。「ゼロ円ショップ」などに来られる方に渡す方法です。その団体が、誰に何を渡したか、記録を付けておけば良いのですが、「自由に持って行っていいですよ！」のような方法であれば、問題が発生した時に追跡の手段がありません。

実際に、この一年間で記録をつけずに自由に持って帰った方からのクレームが二件発生しました。

一件は、もらったお米とジュースが臭いというクレームです。受領したと言われる団体には、そのようなお米とジュースを渡しておらず、主催者が別の所からもらったもので、当人は当センターからの提供品と決めつけ、保健所、市役所、メーカーに通告しました。調べたら何の品質劣化もありませんでした。

二件目は、「嘘」でした。もらったキャラメルを食べたら異物が出て来たというクレームでした。その方は、いきなり市役所に訴えました。保健所も製造会社も巻き込まれました。結局、その方が通う歯科医に異物を調べてもらったら、歯の治療で使った詰め物でした。キャラメルが入れ歯にくっついて外れた入れ歯から出て来たのですが、それを知っていてクレームをつけてきたのです。

両者に共通している事は、渡した時に何のサインをもらわず記録を取っていなかったこと、食品に関しての連絡先を明確にしていなかった事、何らかの方法で受領者との間で取り交わしていれば、まずこんなクレームはなかったことでしょう。

このような「自由に渡していた」団体に注意を申し上げても、改善されなかった為、提供を止めた事例もあります。改善をされなかった理由として「個人情報を知ることは出来ない」と反論されましたが、それはおかしいです。個人情報（名前と住所）を教えていただきお渡しするのが、食品の安全性を確保する基本動作です。個人情報の提供を拒否する方には、お渡しする必要はありません。

まだまだ、不完全ではありますが、安全におわたしして、食べていただける仕組みをさらに改善していきます。

ご支援の数々

多方面にわたりご支援をいただきました。ありがとうございます。

＊日本新薬　様

社内にて定期的にフードドライブを開催していただき、いつもお米等たくさんいただいております。とても助かります!!

神奈川県合同庁舎にてフードドライブを開催



＊箱根ベーカリー　様



大量のパンをいただきました。子どもの顔より大きなパンで、とても美味しかったです！

＊国際ソロプチミスト小田原　様

ソロプチミストの全国組織にご推薦いただき、寄付金を頂きました。

また、小田原支部様からもご支援いただきました。センター内の厨房設備に使わせていただきます。



＊24 時間テレビ　様



助成金をいただきました。食品管理・移動を潤沢にするための、かご台車とスチール棚を購入させていただきました。スタッフの腰痛が軽減されることでしょう！